

事前準備 ～ 証明書の申請から取得まで

改版履歴			
版数	日付	内容	担当
V.1.1	2014/12/22	初版	NII
V.1.2	2015/5/15	中間CA証明書のファイル名を修正	NII
V.1.3	2015/12/11	サーバ証明書設定について注釈を追加	NII
V.2.0	2018/2/26	SHA1の記載内容の削除	NII
V.2.1	2018/7/9	DNのルール ECDSA対応を追加 IISにおけるCSR作成手順を追加	NII
V.2.5	2019/6/10	DNのルール(Locality Name)の修正	NII
V2.6	2020/1/30	誤植のある画像の差し替え	NII
V.2.7	2020/4/13	DNのルール(State or Province Name、Locality Name)の修正	NII
V.2.8	2020/7/15	DNのルール、TSVファイル形式のSTおよびLの値の説明、リンクの変更	NII
V.2.9	2020/12/22	サーバー証明書L、STを必須に修正 サーバー証明書OUの利用条件を修正	NII
V.2.10	2022/08/02	CSR作成からOUを削除	NII

目次

- 1.事前準備
- 2.鍵ペアの生成とCSRの作成(openssl)
 - 2-1 鍵ペアの生成
 - 2-2 CSRの生成
- 3.IISを利用したCSRの作成
 - 3-1 CSRの生成
 - RSAの場合
 - ECDSAの場合
- 4.証明書の申請から取得まで

1.事前準備

鍵ペア・CSRを生成する前に、事前に以下の項目の準備をしてください。

事前準備
1. 乱数生成用ファイルの準備(200KB程度のファイルであればどんなものでもかまいません) 本マニュアルではファイル名を randfile1.txt 、 randfile2.txt 、 randfile3.txt とします。
2. サーバ鍵ペア用私有鍵パスフレーズ<PassPhrase>(「2-1、2-2で使用」)
3. サーバ DN (※サーバDNについては、本サービス証明書ポリシーまたは、下記DNのルールをご確認ください)
4. CSRファイル名は servername.csr としています。

CSRに記述するDNのルールは以下のとおりとなります。

DNのルール			
項目	指定内容の説明と注意	必須	文字数および注意点
Country(C)	本認証局では必ず「JP」と設定してください。 例) C=JP	○	JP固定
State or Province Name(ST)	「都道府県」(ST)は利用管理者及び利用者が所属する組織の所在地の都道府県名としサービス窓口事前に届出したおりの所在地の都道府県名をローマ字表記で指定してください。この情報は各所属機関の登録担当者にお問い合わせください。 例) ST=Tokyo	○	STとして指定できる値は下記リンクを参照してください。機関ごとに固定となります。 UPKI証明書 主体者DNにおける ST および L の値一覧 ※STおよびLが必須。(2020年12月22日以降)

Locality Name(L)	「場所」(L)は利用管理者及び利用者が所属する組織の所在地の市区町村名とし、サービス窓口事前に届出したおりの所在地の市区町村名をローマ字表記で指定してください。この情報は各所属機関の登録担当者にお問い合わせください。 例)L=Chiyoda-ku	○	Lとして指定できる値は下記リンクを参照してください。機関ごとに固定となります。 UPKI証明書 主体者DNにおける ST および L の値一覧 ※STおよびLが必須。(2020年12月22日以降)
Organization Name (O)	サービス参加申請時の機関名英語表記を設定してください。この情報は各所属機関の登録担当者にお問い合わせください。 例)O=National Institute of Informatics	○	半角の英数字64文字以内(記号は「(),-./:=」と半角スペースのみ使用可能)
Common Name(CN)	サーバ証明書URLに表示されるウェブ・サーバの名前をFQDNで設定してください。例えばSSL/TLSを行うサイトが https://www.nii.ac.jp/ の場合には、「www.nii.ac.jp」となります。FQDNにはサービス参加申請時に登録いただいた対象ドメイン名を含むFQDNのみ、証明書発行が可能となります。 例)www.nii.ac.jp	○	証明書をインストールする対象サーバのFQDNで64文字以内半角英数字、".","-"のみ使用可能。また、先頭と末尾に"."と"-"は使用不可
Email	本認証局では使用しないでください。	×	
鍵長			
RSA 2048bit ECDSA 384bit			

○・・・必須 ×・・・入力不可 △・・・省略可

注意：証明書の更新を行う場合は、先に各手順の「サーバ証明書の置き換えインストール」をご確認ください。

2.鍵ペアの生成とCSRの作成(openssl)

2-1 鍵ペアの生成

以下にopensslを使用した場合の鍵ペアの生成方法を記述します。

鍵ペアの作成

RSA鍵の場合

1. 鍵ペアを生成するため、「1.事前準備」の手続き1で用意したファイル (200 KB 程度) を3つ選んでください。この手続きでは、選択したファイルの名前を「randfile1.txt」、「randfile2.txt」、「randfile3.txt」として表記します。
2. 用意したファイルを、作業ディレクトリに移動してください。

```
$mv <randfile1.txt> <randfile2.txt> <randfile3.txt> /etc/httpd/conf/ssl.key/
```

3. 鍵ペアの作成を行うため、次のコマンドを入力してください。今回のコマンド例では、作業ディレクトリに移動し、2048 bitのRSA 鍵ペアを生成し、「servername.key」という名前で保存することを示しています。

```
$cd /etc/httpd/conf/ssl.key/ ←作業ディレクトリへ移動してください
$openssl genrsa -des3 -rand <randfile1.txt>:<randfile2.txt>:<randfile3.txt> 2048 > servername.key

Generating RSA private key, 2048 bit long modulus
.....++++++
.....++++++
unable to write 'random state'
e is 65537 (0x10001)
Enter pass phrase: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ入力
Verifying - Enter pass phrase: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ再入力
```

重要： この鍵ペア用私有鍵パスフレーズは、サーバの再起動時および証明書のインストール等に必要な重要な情報です。鍵ペア利用期間中は忘れることがないように、また、情報が他人に漏れることがないように、安全な方法で管理してください。

4. 作成した鍵ペアのファイルを保存します。バックアップは外部媒体ディスク等に保存し、安全な場所に保存してください。鍵ペアの中の私有鍵を利用すれば、お使いのウェブ・サーバがSSL/TLS で保護して送受信したデータを、解読することができてしまいます。従って保存する鍵ペアファイルへのアクセス権は利用管理者自身とSSL/TLS サーバのプロセス等必要最小限になるよう設定してください。またバックアップを保存した外部媒体ディスク等も利用管理者のみまたは同じ権限のある方のみ利用できる場所へ保管してください。また、鍵ペア用私有鍵パスフレーズの管理も、確実に行ってください。鍵ペアファイルの紛失、鍵ペア用私有鍵パスフレーズ忘れ等が発生した場合、証明書のインストールが行えなくなります。この場合、新たに証明書を申請しなおしていただくことになりますので、ご注意ください。

ECDSA鍵の場合

1. 鍵ペアの作成を行うため、次のコマンドを入力してください。今回のコマンド例では、作業ディレクトリに移動し、384 bitのECDSA 鍵ペアを生成し、「servername.key」という名前で保存することを示しています。

```
$openssl ecparam -name secp384r1 -genkey | openssl ec -out servername.key -des3
read EC key
writing EC key
Enter PEM pass phrase: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ入力
Verifying - Enter PEM pass phrase: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ再入力
```

重要： この鍵ペア用私有鍵パスフレーズは、サーバの再起動時および証明書のインストール等に必要な重要な情報です。鍵ペア利用期間中は忘れることがないように、また、情報が他人に漏れることがないように、安全な方法で管理してください。

2. 作成した鍵ペアのファイルを保存します。バックアップは外部媒体ディスク等に保存し、安全な場所に保存してください。鍵ペアの中の私有鍵を利用すれば、お使いのウェブ・サーバがSSL/TLS で保護して送受信したデータを、解読することができてしまいます。従って保存する鍵ペアファイルへのアクセス権は利用管理者自身とSSL/TLS サーバのプロセス等必要最小限になるよう設定してください。またバックアップを保存した外部媒体ディスク等も利用管理者のみまたは同じ権限のある方のみ利用できる場所へ保管してください。また、鍵ペア用私有鍵パスフレーズの管理も、確実に行ってください。鍵ペアファイルの紛失、鍵ペア用私有鍵パスフレーズ忘れ等が発生した場合、証明書のインストールが行えなくなります。この場合、新たに証明書を申請しなおしていただくことになりますので、ご注意ください。

2-2 CSRの生成

鍵ペアが作成されたことを確認後、CSRを生成します。

CSRの作成

1. 次のコマンドを入力し、CSRの作成を開始してください。パスフレーズの入力が必要ですので、「2-1 鍵ペアの生成」の手続き3で作成した私有鍵のパスフレーズを入力してください。

RSA鍵の場合

コマンドでは、署名アルゴリズムSHA2でCSRを作成し、「servername.csr」（ファイル名は任意）というファイル名で保存することを示しています。

```
Sopenssl req -new -key servername.key -sha256 -out servername.csr ←CSRファイル名
Enter pass phrase for servername.key: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ入力
```

「-sha256」:署名アルゴリズムを示すオプション。

署名アルゴリズムSHA1でCSRを作成する場合は、「-sha1」に置き換えてください。

ECDSA鍵の場合

コマンドでは、署名アルゴリズムecdsa-with-SHA256でCSRを作成し、「servername.csr」（ファイル名は任意）というファイル名で保存することを示しています。

```
Sopenssl req -new -key servername.key -sha256 -out servername.csr ←CSRファイル名
Enter pass phrase for servername.key: <PassPhrase> ←私有鍵パスフレーズ入力
```

「-sha256」:署名アルゴリズムを示すオプション。

署名アルゴリズムecdsa-with-SHA384でCSRを作成する場合は、「-sha384」に置き換えてください。

2. パスフレーズの入力に成功するとDN情報の問い合わせが行われますので、「1. 事前準備」の「DNルール」に従い、DN情報を入力してください。

OpenSSLでは必要ない項目を「.」ドットを入力することにより、省略することができます。

You are about to be asked to enter information that will be incorporated into your certificate request.

What you are about to enter is what is called a Distinguished Name or a DN.

There are quite a few fields but you can leave some blank

For some fields there will be a default value,

If you enter '.', the field will be left blank.

Country Name (2 letter code) [AU]:**JP** ←**"JP"を入力**

State or Province Name (full name) []:**Tokyo** ←**都道府県名を入力**

Locality Name (eg, city) []:**Chiyoda-ku** ←**市町村名を入力**

Organization Name (eg, company) [Default Company Ltd]:**National Institute of Informatics** ←**組織名を入力**

Organizational Unit Name (eg, section) []: ← **「.」ドットを入力**

Common Name (eg, your name or your server's hostname) []:**www.nii.ac.jp** ← **サーバ名FQDNを入力**

Email Address []: ← **「.」ドットを入力**

Please enter the following 'extra' attributes

to be sent with your certificate request

A challenge password []: ← **「.」ドットを入力**

An optional company name []: ← **「.」ドットを入力**

3. 要求された情報の入力が完了するとCSRが生成され、servername.csrに保存されます。なお、このファイルも、バックアップをとって、証明書を受領するまでは別途保管することをお勧めします。

-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----

MIIBhDCB7gIBADBQswCQYDVQQGEwJKUDEQMA4GA1UEBxMHQWNhZGVtZTEMMAoG

例

Um0E3vq8Ajq=

-----END CERTIFICATE REQUEST-----

4. 以下のコマンドを入力することにより、CSRの内容を確認することができます。

RSA鍵で作成したCSRの場合

```
$ openssl req -noout -text -in servername.csr
Certificate Request:
Data:
  Version: 0 (0x0)
  Subject: C=JP, L=Chiyoda-ku, ST=Tokyo, O=National Institute of Informatics, CN=www.nii.ac.jp←CSR生成時に入力したDNと一致していることを確認してください。
  Subject Public Key Info:
    Public Key Algorithm: rsaEncryption
    Public Key: (2048 bit)←鍵長が2048bitであることを確認してください。
      Modulus:
        00:c9:0e:99:5c:8a:4a:e3:b2:e2:0d:3d:60:4d:30:
        :
        例
        :
        ca:2e:56:f7:66:bd:01:44:ea:f3:ca:d2:f6:e0:5e:
        6c:57:4b:65:e4:e7:f7:ca:dd
      Exponent: 65537 (0x10001)
  Attributes:
    a0:00
  Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption←CSR生成時に指定した署名アルゴリズムであることを確認してください。署名アルゴリズムにsha1を指定した場合は「sha1WithRSAEncryption」と表示されます。
    88:44:e5:27:06:02:ec:85:6c:29:6a:0f:a3:92:87:4e:e2:f1:
    :
    例
```

ECDSA鍵で作成したCSRの場合

```
$ openssl req -noout -text -in servername.csr
Certificate Request:
Data:
  Version: 0 (0x0)
  Subject: C=JP, ST=Tokyo, L=Chiyoda-ku, O=National Institute of Informatics, CN=www.nii.ac.jp←CSR生成時に入力したDNと一致していることを確認してください。
  Subject Public Key Info:
    Public Key Algorithm: id-ecPublicKey
    Public Key: (384 bit)←鍵長が384bitであることを確認してください。
      pub:
        04:6c:66:6a:98:01:63:ed:b8:36:fe:d9:bd:54:f7:
        :
        例
        :
        c2:7e:92:20:93:e6:29
      ASN1 OID: secp384r1
      NIST CURVE: P-384
  Attributes:
  Requested Extensions:
    X509v3 Subject Key Identifier:
      98:5A:D9:7B:3C:5D:4E:C1:62:8C:5F:2D:89:1A:B3:DC:F7:6C:1C:E2
  Signature Algorithm: ecdsa-with-SHA256←CSR生成時に指定した署名アルゴリズムであることを確認してください。署名アルゴリズムにsha384を指定した場合は「ecdsa-with-SHA384」と表示されます。
    88:44:e5:27:06:02:ec:85:6c:29:6a:0f:a3:92:87:4e:e2:f1:
    :
    例
    :
    9c:3c:0b:7e:1c:55:3d:c3:b3:7a:3a:36:d1:f6:3a:97:78:1a:
    c1:cc
```

3.IISを利用したCSRの作成

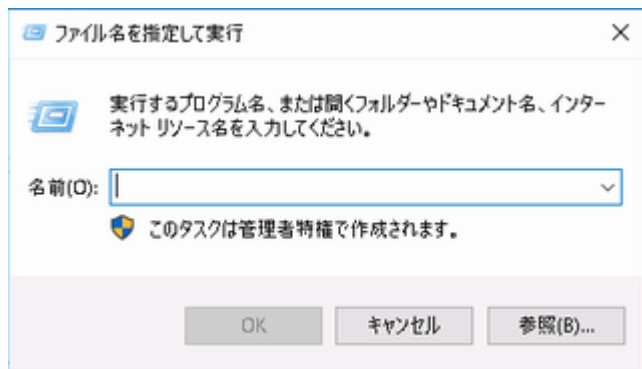
3-1 CSRの生成

以下にIISを使用した場合のCSRの作成を記述します。

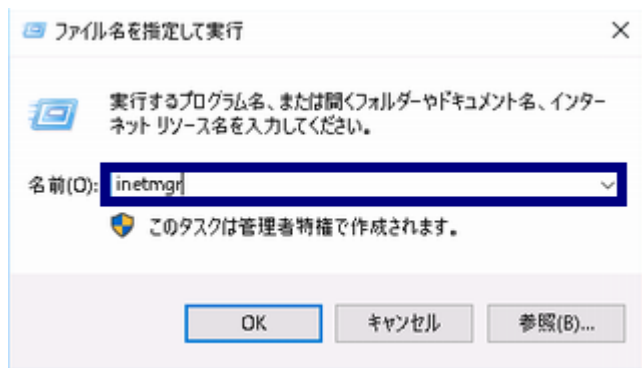
CSRの作成

RSAの場合

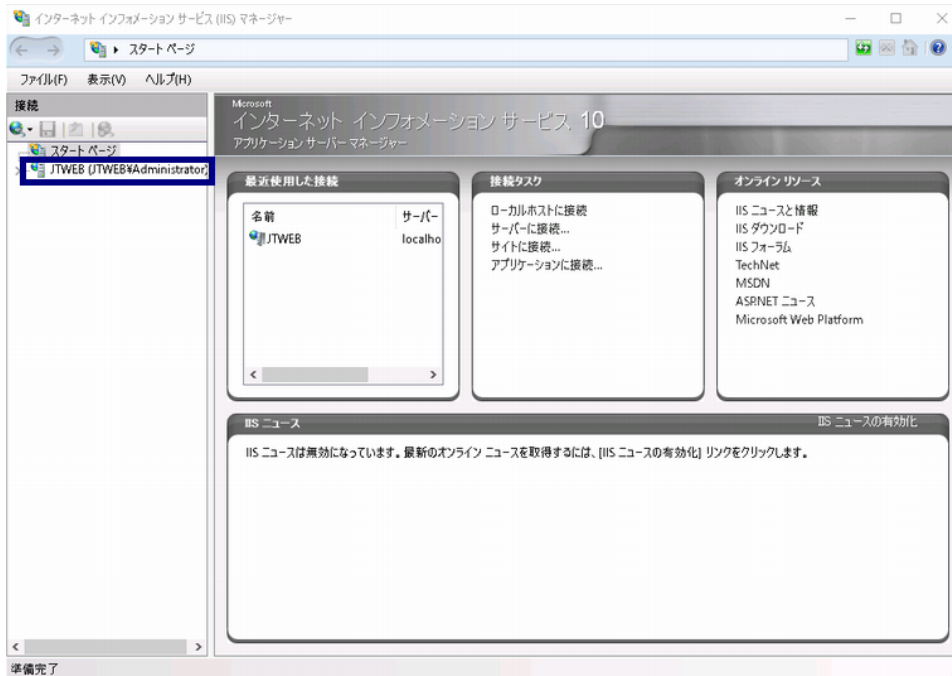
1. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。[アクセサリ] をクリックして、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。



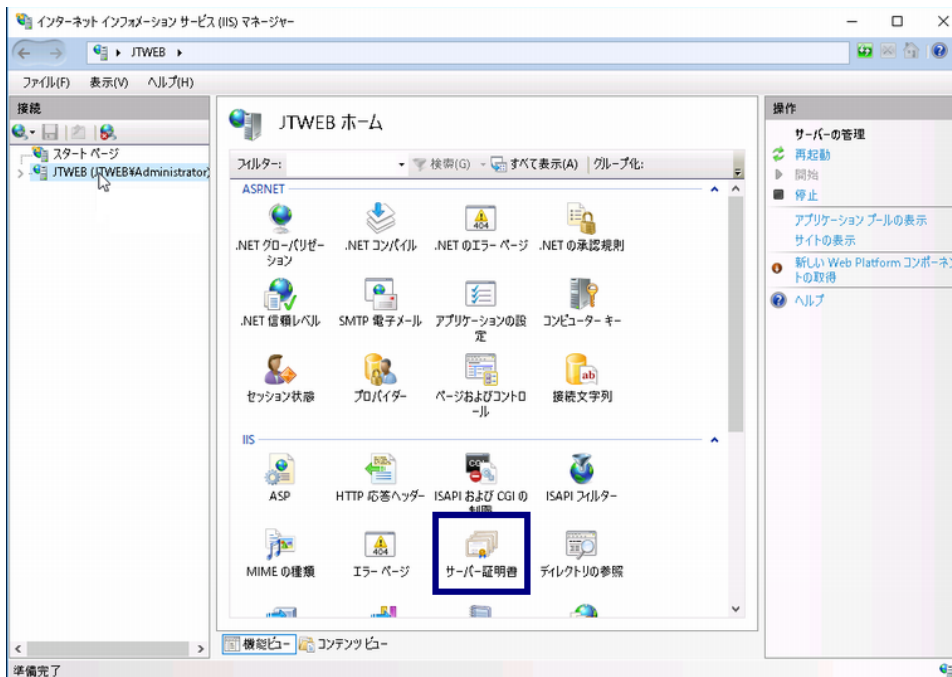
2. [名前] ボックスに「inetmgr」と入力し、[OK] をクリックします。



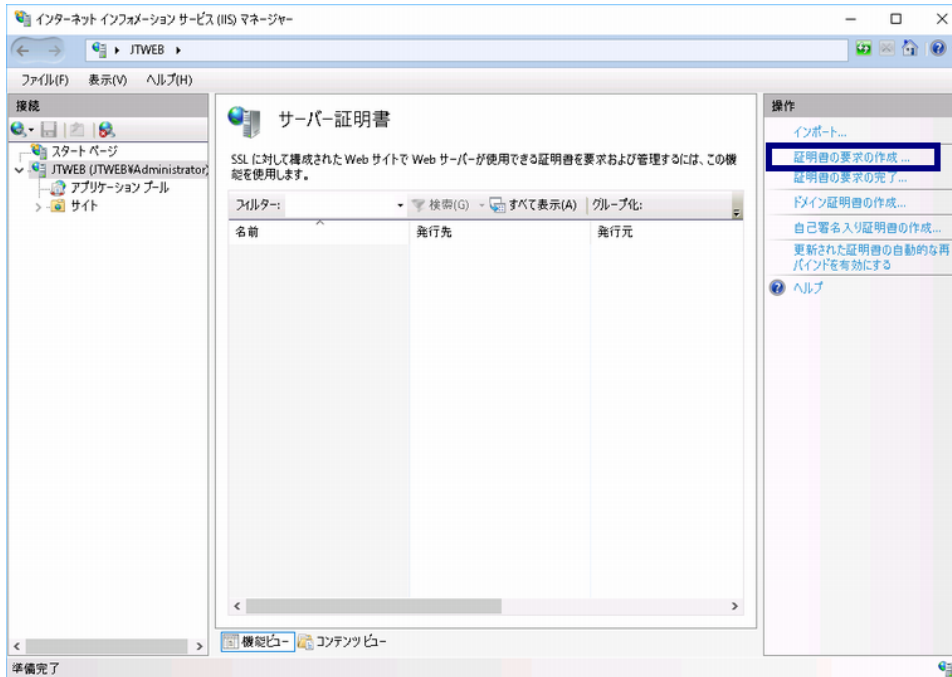
3. インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーが表示されます。
画面左側の[接続]メニューよりサーバー名をクリックしてください。



4. [サーバー証明書]をダブルクリックしてください。



5. [操作]ペインの[証明書の要求の作成]を選択してください。



6. [証明書の要求]画面で[識別名プロパティ]が表示されますので、[2-2. 事前準備]の[DNルール]に従い、DN情報を入力して[次へ(N)]を押してください。

The screenshot shows the '証明書の要求' (Certificate Request) dialog box. The '識別名プロパティ' (Distinguished Name Properties) tab is selected. The dialog contains a list of fields for specifying the certificate request information. The fields are: '一般名 (M):' (Common Name), '組織 (O):' (Organization), '組織単位 (OU)(U):' (Organizational Unit), '市区町村 (L):' (Locality), '都道府県 (S):' (State/Province), and '国/地域 (R):' (Country/Region). The values entered are: 'www.nii.ac.jp' for Common Name, 'National Institute of Informatics' for Organization, 'ement Department' for Organizational Unit, 'Chiyoda-ku' for Locality, 'Tokyo' for State/Province, and 'JP' for Country/Region. The '次へ(N)' (Next) button is highlighted with a blue border.

7. [暗号化サービス プロバイダーのプロパティ]が表示されますので、
[暗号化サービス プロバイダー(S)]の欄は[Microsoft RSA Schannel Cryptographic Provider]を選択し、
[ビット長(B)]の欄は[2048]を選択して[次へ(N)]を押してください。

証明書の要求

暗号化サービス プロバイダーのプロパティ

暗号化サービス プロバイダーおよびビット長を指定します。暗号化キーのビット長は、証明書の暗号化の強度を決定します。ビット長が大きいほどセキュリティは高くなりますが、パフォーマンスが低下する可能性があります。

暗号化サービス プロバイダー(S):

Microsoft RSA Schannel Cryptographic Provider

ビット長(B):

2048

前に戻る(P) 次へ(N) 終了(F) キャンセル

8. [ファイル名]が表示されますので、
[証明書の要求ファイル名を指定してください(R)]の欄に任意の保存場所を選択して[終了(F)]を押してください。

証明書の要求

ファイル名

証明書の要求のファイル名を指定してください。この情報は署名のために証明機関に送信される可能性があります。

証明書の要求ファイル名を指定してください(R):

C:\Users\Administrator\Desktop\servername.csr

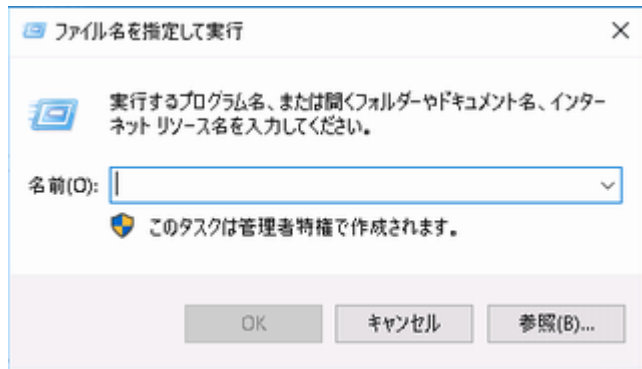
前に戻る(P) 次へ(N) 終了(F) キャンセル

9. 指定した保存場所に生成したCSRが保存されます。

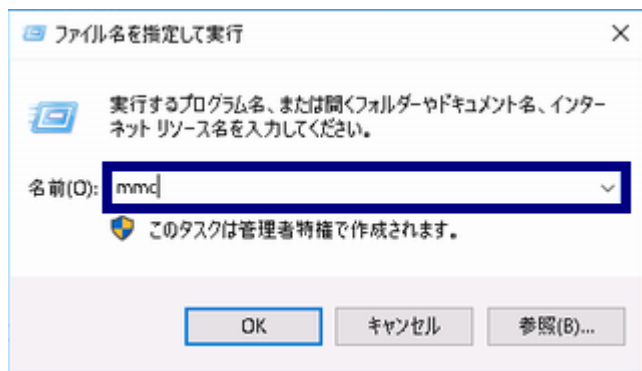


ECDSAの場合

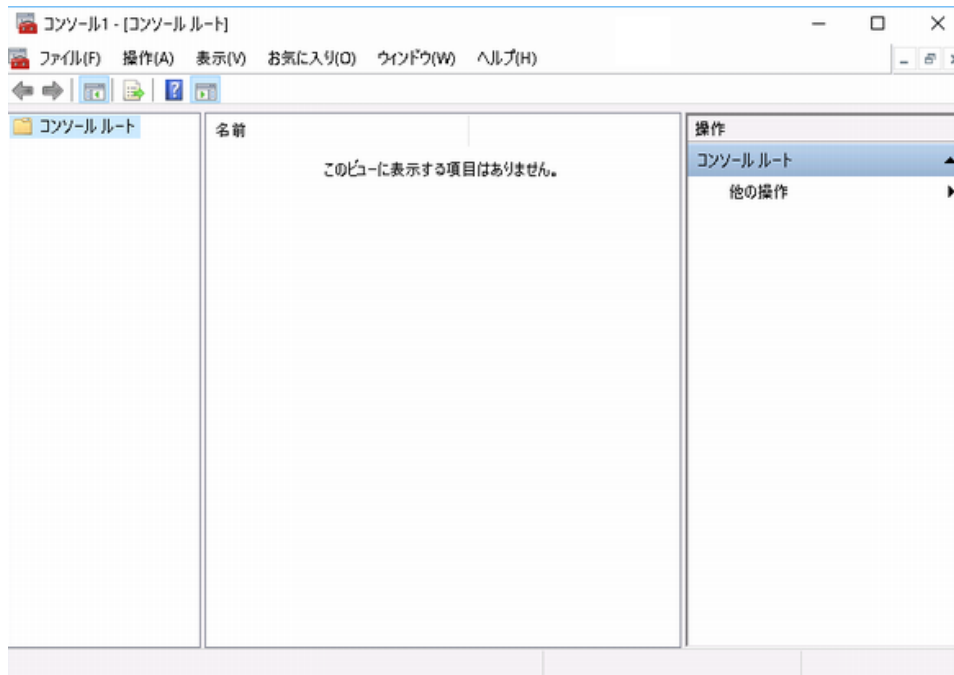
1. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。[アクセサリ] をクリックして、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。



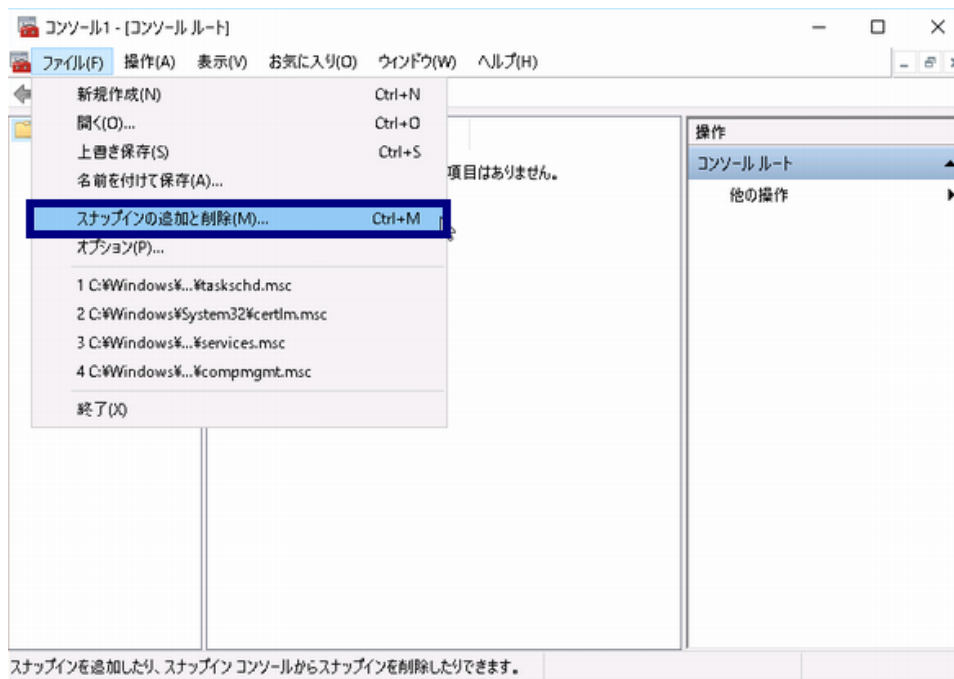
2. [名前] ボックスに「mmc」と入力し、[OK] をクリックします。



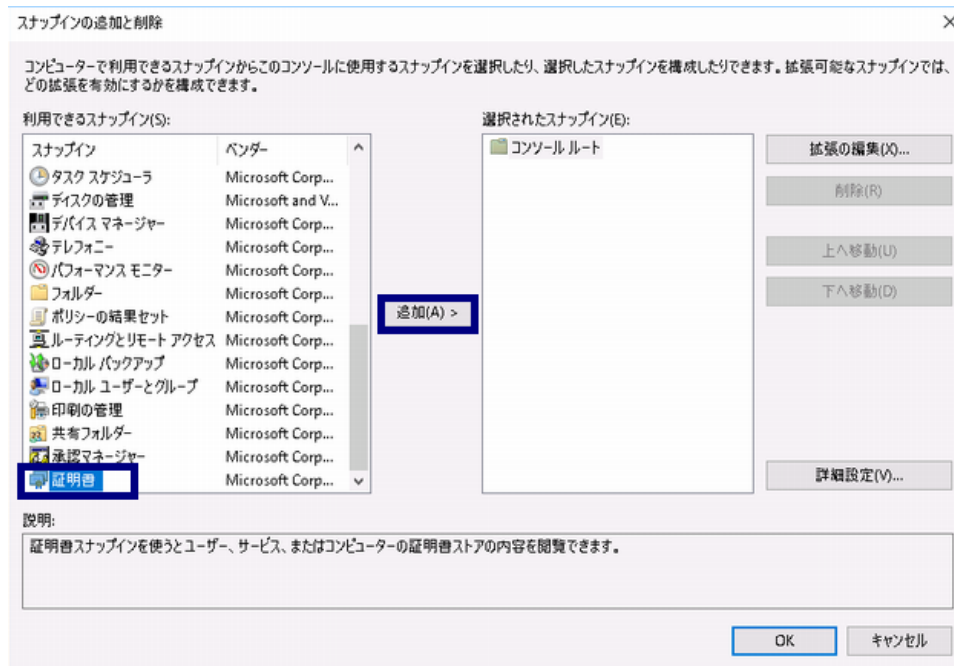
3. Microsoft Management Console が表示されます。



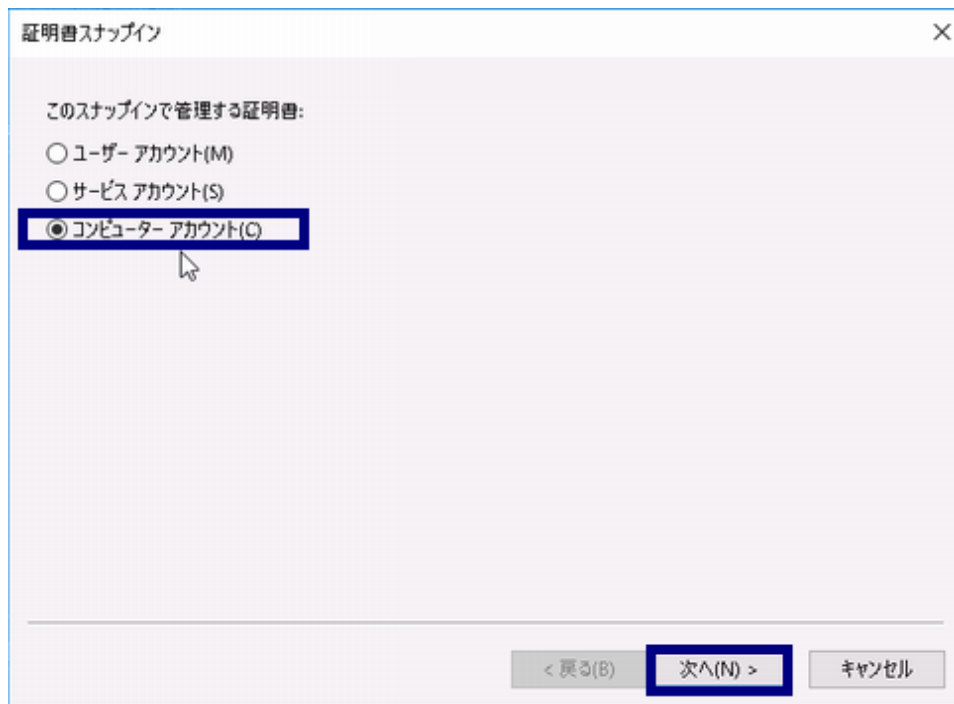
4. [ツールバー] > [ファイル] > [スナップインの追加と削除] を選択してください。



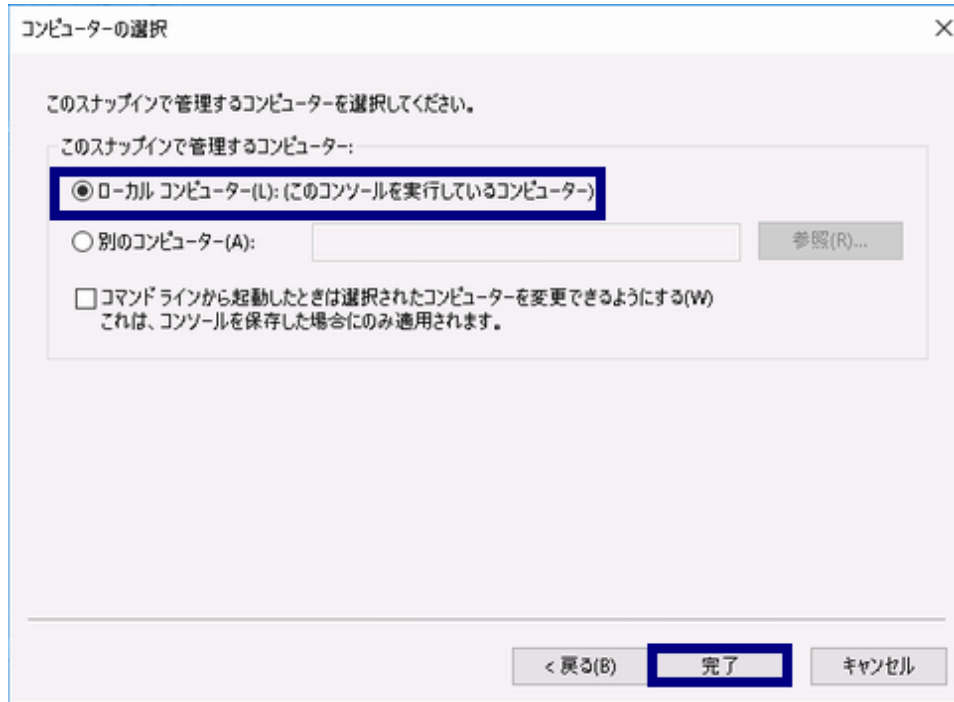
5. [利用できるスナップイン] > [証明書] を選択し、[追加]ボタンを押下してください。



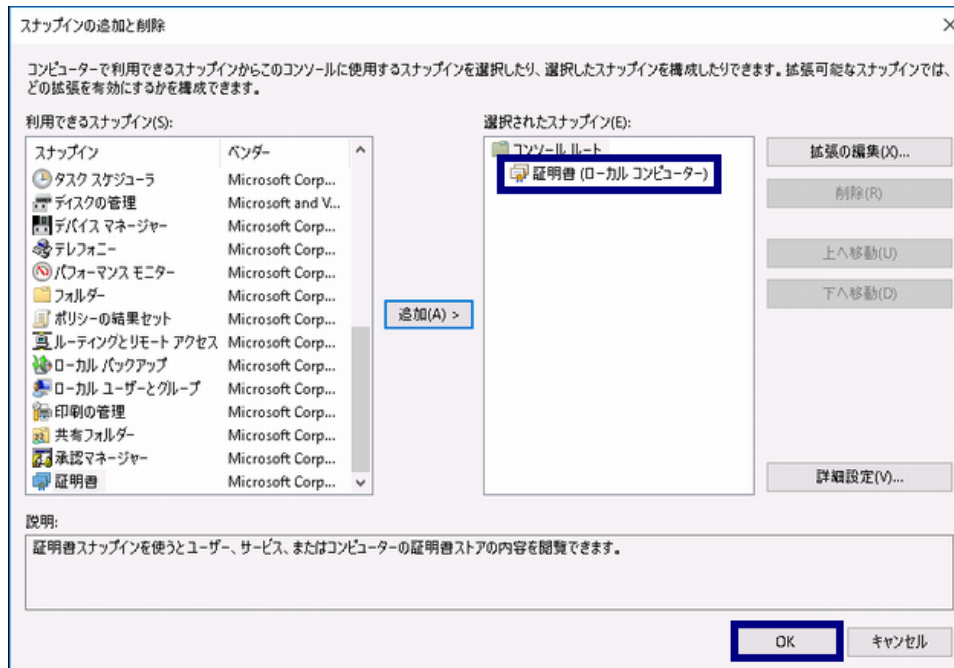
6. [コンピュータアカウント]を選択し、[次へ]ボタンを押下してください。



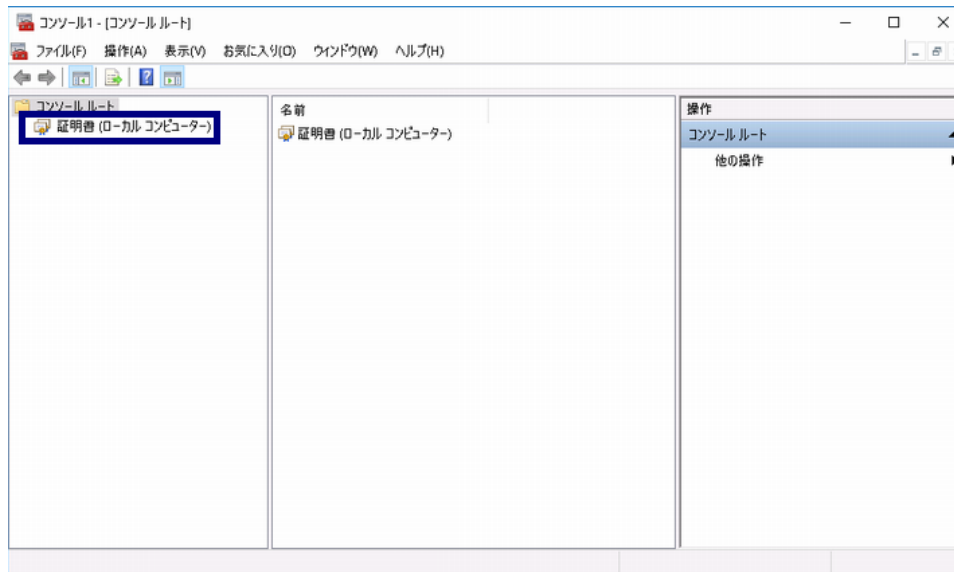
7. ローカルコンピュータ（このコンソールを実行しているコンピュータ）]を選択し、[完了]ボタンを押下してください。



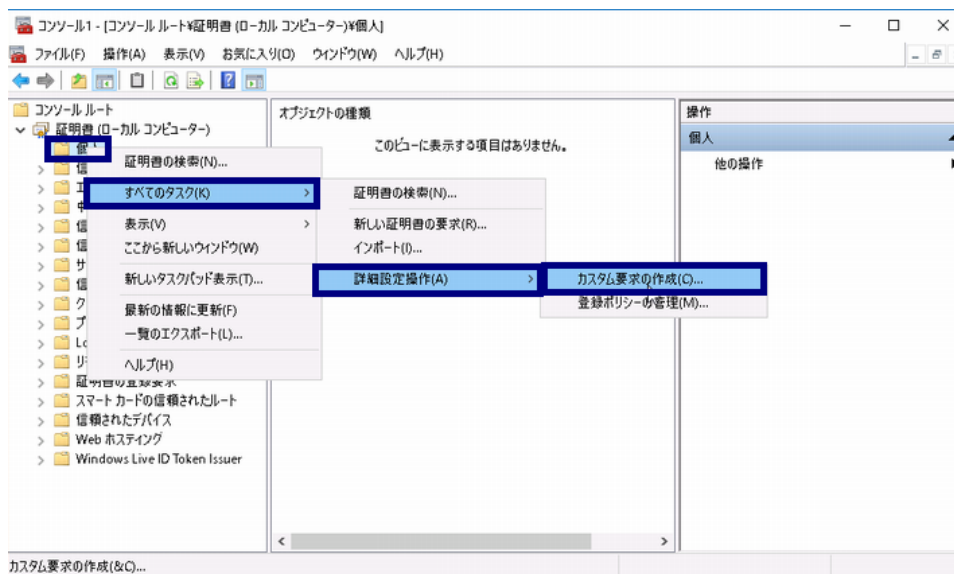
8. 選択されたスナップインに [証明書 - ローカル コンピューター]が表示されていることを確認し、[OK]ボタンを押下してください。



9. [コンソールルート] > [証明書 - ローカル コンピューター]が表示されていることを確認してください。



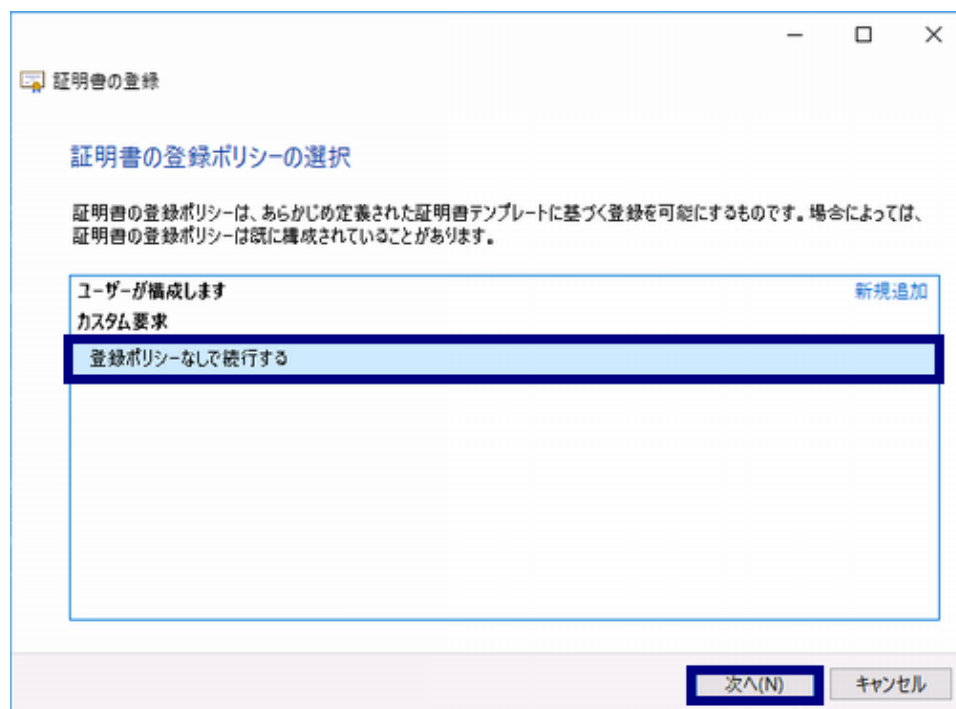
10. [コンソールルート] > [証明書 - ローカル コンピューター] > [個人] > [証明書]を選択し、右クリックメニューから[すべてのタスク] > [詳細設定操作] > [カスタム要求の作成]を選択してください。



11. [次へ]ボタンを押下してください。



12. [カスタム要求]>[登録ポリシーなしで発行する]を選択し、[次へ]ボタンを押下してください。



13. 以下を選択し、[次へ]ボタンを押下してください。
テンプレート：[(テンプレートなし) CNG キー]
要求の形式：PKCS#10

The screenshot shows a window titled '証明書の登録' (Certificate Registration). The 'カスタム要求' (Custom Requirements) tab is selected. The text below the tab reads: '下の一覧からオプションを1つ選択し、必要に応じて証明書のオプションを構成してください。' (Select one option from the list below and configure the certificate options as needed). There are two main sections: 'テンプレート:' (Template:) with a dropdown menu showing '(テンプレートなし) CNG キー' (Templateless CNG Key), and '要求の形式:' (Requirement Format:) with two radio buttons: 'PKCS #10(P)' (selected) and 'CMC(C)' (disabled). A note at the bottom states: '注意: キーのアーカイブは、このオプションが証明書テンプレートに指定されている場合でも、カスタム証明書要求に基づく証明書では利用できません。' (Note: Key archiving is not available for certificates based on custom certificate requirements, even if this option is specified in the certificate template). At the bottom right are buttons for '次へ(N)' (Next) and 'キャンセル' (Cancel).

14. [詳細]を押下してください。

The screenshot shows the same '証明書の登録' (Certificate Registration) window, but the '証明書情報' (Certificate Information) tab is selected. The text below the tab reads: 'このテンプレートに対して既に選択されているオプションを使用する場合は [次へ] を、証明書要求をカスタマイズする場合は [詳細] をクリックし、[次へ] をクリックしてください。' (If you want to use the options already selected for this template, click [Next]. If you want to customize the certificate requirements, click [Details] and then click [Next]). Below this text is a table with one row: a checked checkbox for 'カスタム要求' (Custom Requirements), a status icon and text '状態: 利用可能' (Status: Available), and a '詳細' (Details) button with a dropdown arrow. At the bottom right are buttons for '次へ(N)' (Next) and 'キャンセル' (Cancel).

15. 詳細内容を表示し、プロパティボタンを押下してください。

証明書登録

証明書情報

このテンプレートに対して既に選択されているオプションを使用する場合は [次へ] を、証明書要求をカスタマイズする場合は [詳細] をクリックし、[次へ] をクリックしてください。

☒ カスタム要求

状態: 利用可能

詳細 ^

次のオプションは、この種類の証明書に適用される使用法と有効期間を表します:

キー使用法:

アプリケーション ポリシー:

有効期間 (日数):

プロパティ(P)

次へ(N)

キャンセル

16. サブジェクトタブを選択後、以下を選択し、[追加]ボタンを押下してください。

種類：「完全なDN」

値：指定したい主体者DNを入力（例：CN=www.nii.ac.jp,O=National Institute of Informatics,L=Chiyoda-ku,ST=Tokyo,C=JP）

証明書のプロパティ

全般 サブジェクト 拡張機能 秘密キー

証明書のサブジェクトとは、証明書の発行先であるユーザーまたはコンピューターです。証明書で使用可能なサブジェクト名の種類と別名の値に関する情報を入力できます。

証明書のサブジェクト
証明書を受け取るユーザーまたはコンピューター

サブジェクト名:

種類(N):
完全な DN

値(V):
CN=www.nii.ac.jp,O=National Institute of Informatics

追加 >

< 削除

別名:

種類(N):
ディレクトリ名

値(U):

追加 >

< 削除

OK キャンセル 適用(A)

17. 上記の入力内容が、右側のリストに表示されていることを確認し、[OK]ボタンを押下してください。

証明書のプロパティ

×

全般サブジェクト拡張機能秘密キー

証明書のサブジェクトとは、証明書の発行先であるユーザーまたはコンピューターです。証明書で使用可能なサブジェクト名の種類と別名の値に関する情報を入力できます。

証明書のサブジェクト

証明書を受け取るユーザーまたはコンピューター

サブジェクト名:

種類(T):
完全な DN
値(V):

追加 >
< 削除

CN=www.nii.ac.jp
O=National Institute of Informatics
L=Chiyoda-ku
ST=Tokyo
C=JP

別名:

種類(Y):
ディレクトリ名
値(U):

追加 >
< 削除

OK

キャンセル

適用(A)

18. プロパティボタンを押下してください。

証明書登録

証明書情報

このテンプレートに対して既に選択されているオプションを使用する場合は [次へ] を、証明書要求をカスタマイズする場合は [詳細] をクリックし、[次へ] をクリックしてください。

☒ カスタム要求

状態: 利用可能

詳細 ^

次のオプションは、この種類の証明書に適用される使用法と有効期間を表します:

キー使用法:

アプリケーション ポリシー:

有効期間 (日数):

プロパティ(P)

次へ(N)

キャンセル

19. 秘密キータブを選択してください。
暗号化サービスプロバイダーとハッシュアルゴリズムの選択の詳細を表示してください。
以下が選択されていた場合、チェックを外してください。
暗号化サービスプロバイダー：RSA,Microsoft Software Key Storage Provider

証明書のプロパティ

全般 サブジェクト 拡張機能 **秘密キー**

暗号化サービスプロバイダー(C)
CSP は、多数の証明書関連プロセスで使用する公開キーと秘密キーの組を生成するプログラムです。

暗号化サービスプロバイダー (CSP) を選択してください:

- ☒ RSA, Microsoft Software Key Storage Provider
- ☐ DH, Microsoft Software Key Storage Provider
- ☐ DSA, Microsoft Software Key Storage Provider
- ☐ ECDH, Microsoft Software Key Storage Provider
- ☐ ECDH_brainpoolP160r1, Microsoft Software Key Storage Provider
- ☐ ECDH_brainpoolP160t1, Microsoft Software Key Storage Provider

☐ すべての CSP の表示(S)

キーのオプション(O)

ハッシュ アルゴリズムの選択(H)
この要求に使用されるハッシュ アルゴリズムの選択
ハッシュ アルゴリズム: 既定のアルゴリズム

署名の形式の選択(F)

キーのアクセス許可(P)

OK キャンセル 適用(A)

20. 以下を選択し、[OK]ボタンを押下してください。

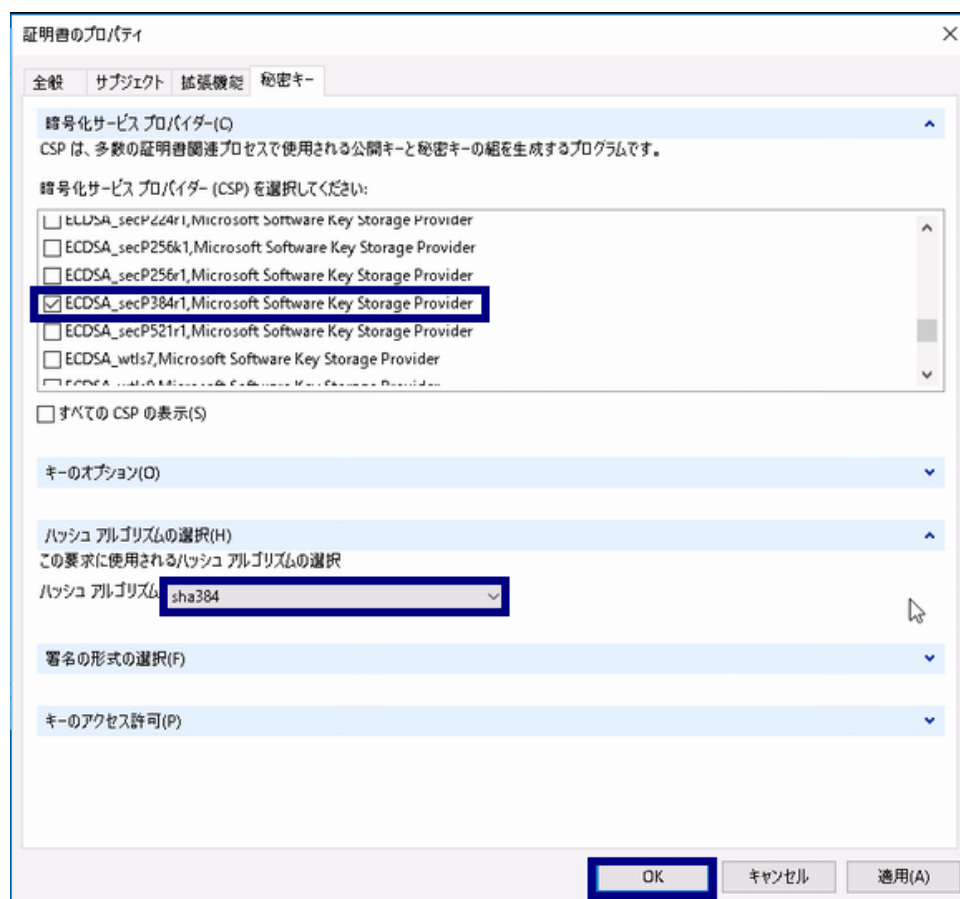
IIS10の場合

暗号化サービスプロバイダー：ECDSA_secp384r1,Microsoft Software Key Storage Provider

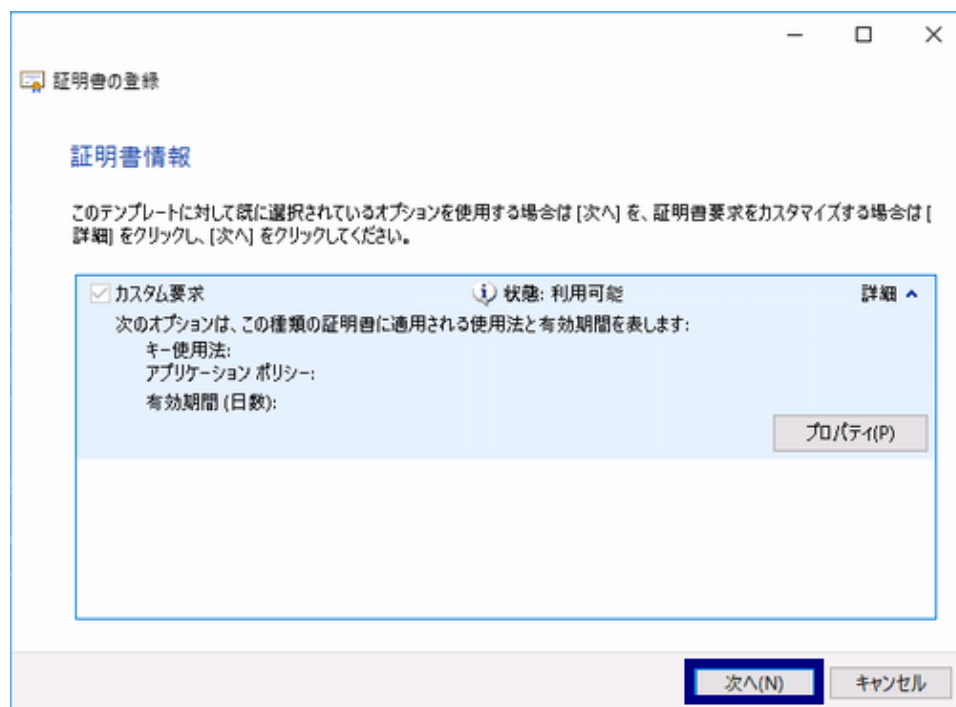
IIS7.5～8.5の場合

暗号化サービスプロバイダー：ECDSA_P384,Microsoft Software Key Storage Provider

ハッシュアルゴリズムの選択：sha384



21. [OK]ボタンを押下してください。



証明書登録

証明書情報

このテンプレートに対して既に選択されているオプションを使用する場合は [次へ] を、証明書要求をカスタマイズする場合は [詳細] をクリックし、[次へ] をクリックしてください。

☒ カスタム要求 状態: 利用可能 詳細 ^

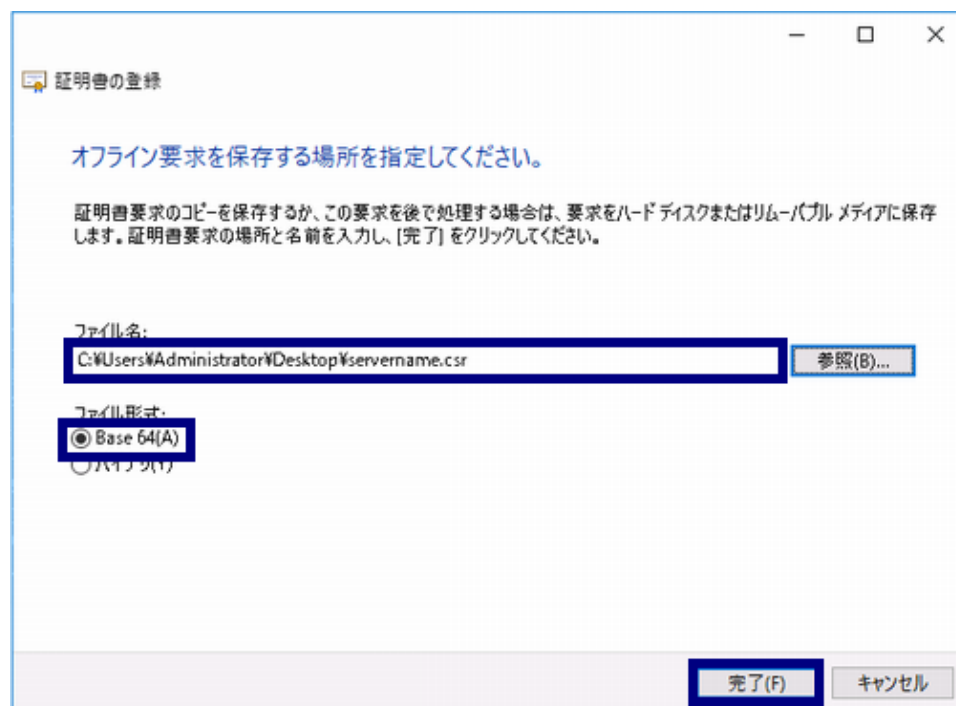
次のオプションは、この種類の証明書に適用される使用法と有効期間を表します:

キー使用法:
アプリケーション ポリシー:
有効期間 (日数):

プロパティ(P)

次へ(N) キャンセル

22. [ファイル名]に任意のファイル名を含む保存先のフルパスを入力します。
[ファイル形式]は[Base 64]を選択します。
[完了]ボタンを押下してください。



証明書登録

オフライン要求を保存する場所を指定してください。

証明書要求のコピーを保存するか、この要求を後で処理する場合は、要求をハードディスクまたはリムーバブルメディアに保存します。証明書要求の場所と名前を入力し、[完了] をクリックしてください。

ファイル名:
C:\Users\Administrator\Desktop\servername.csr 参照(B)...

ファイル形式:
☒ Base 64(A)
☐ バイナリ(B)

完了(F) キャンセル

23. 指定した保存場所に生成したCSRが保存されます。



4. 証明書の申請から取得まで

CSRを作成後、登録担当者へ送付するための証明書発行申請TSVファイルを作成し申請します。

証明書発行申請TSVファイルの作成方法、申請方法等につきましては、「証明書自動発行支援システム操作手順書(利用管理者用)」をご確認ください。
TSVファイル作成用Webアプリケーション (TSVツール) を提供しておりますので、ご利用ください。
証明書の発行が完了すると、本システムより以下のメールが送信されます。メール本文に記載された証明書取得URLにアクセスし、証明書の取得を実施してください。

証明書取得URLの通知

【件名】
Webサーバ証明書発行受付通知

．．．．．

#以下に証明書の取得先が記述されています。
貴機関の登録担当者経由で発行申請をいただきましたサーバ証明書を配付いたします。
本日から1ヶ月以内に以下の証明書取得URLへアクセスし、サーバ証明書の取得を行ってください。
証明書取得URL：

<https://scia.secomtrust.net/~> ←左記URLにアクセスし証明書の取得を行ってください。

．．．．．